優秀賞
支部組合

鳥羽支部
（三重県遊技業協同組合）
「支部内全保育所・園に対する保育行政支援活動」事業

鳥羽支部
支部長
山口浩二さん

子育てを地域全体で支援するために地元の保育所・園に備品を継続寄贈

次代を担う子どもたちの幸福のために子育ての負担を社会全体で分かち合う

次代の社会を担う子ども一人ひとりを社会全体で応援するため、子育てにかかる経済的負担の軽減や安心して子育てができる環境整備のための施策など、総合的な子育て支援を推進する目的で、国は「子ども・子育て支援新制度」を発表し、2015年4月より本格的にスタートした。その制度の下、行政が主導する形で、子育てにかかる経済的負担の軽減や、保護者が安心して子育てできる環境の整備などが進められている。都道府県や市区町村などの自治体による児童手当や乳幼児の医療費助成などの経済的支援、子どもを育てるために必要な情報やサービスの提供、子育て支援センターなどでの育児相談や親子交流の機会の提供なども、そうした施策の一環である。

しかし、国主導の形がとられているものの、そうした施策を主体となって実際に行うのは、あくまでも身近な市区町村であり、地域の実情に応じて子育て支援の量の拡大と質の向上を目指す必要がある。とはいえ、ほとんどの市区町村では厳しい財政状況にあり、子育て支援にばかり予算を割けないというのも実状である。そこで重要となるのが、地域住民のサポートであったり、そこで事業を営む企業の支援活動であったりするのだが、三重県鳥羽市・志摩市を商圏とする三重県遊技業協同組合鳥羽支部では、子ども・子育て支援新制度が発足する前の2010年から、両市にある保育所や保育園に対する支援活動を継続している。

鳥羽市役所で行なわれた贈呈式

志摩市の市長から感謝状を受領

鳥羽市・志摩市にある保育所・園が希望する備品を10年にわたって寄贈

この支援活動は、両市にある19ヵ所の保育所・園に対して、保育に必要となる備品や消耗品などの物品を寄贈して保育に役立ててもらうもので、10年連続となった。特徴としては、支部が寄贈する物品を決めるのではなく、各所・園が自由に品目選択できるようになっていることである。そのため寄贈先の保育所・園では、自分たちが必要なものを計画的に備えることができると、好評を得ている。毎年、年度末に寄贈が実施されるが、それまでに両市の保育担当課と連携し、希望に沿った寄贈品目を決定することになっている。これまでに、楽器、防災避難用の手押し避難車、知育玩具、三輪車、砂場セットなど、多種多様なものが寄贈されたが、その総計は約1,000万円相当となっている。ちなみに2020年度は、約100品目、約120万円相当の物品が贈られた。

2020年2月3日に鳥羽市の市長室で行われた贈呈式では、山口浩二支部長が「厳しい保育現場にとって、少しでもお役に立てれば幸いです」と話したのに対し、中村欣一郎市長からは「財政が厳しいなかで、このように行き届いた備品の寄贈は大変ありがたい。子どもたちの喜ぶ顔が目に浮かぶ。大切に使わせていただきます」と、お礼の言葉をいただいた。なお、3月3日には志摩市においても同様の贈呈式が開催された。こうした模様は市のホームページや広報誌を通じて公表されているため、市民の認知度も高く、支部や遊技業界全体に対する評価の向上につながっている。支部内には休業・廃業するホールがあり、残るホールも厳しい経営環境下にあるが、今後も地域の子どもたちや子育て世帯、関係機関のために、この寄贈活動は継続していく方針だ。